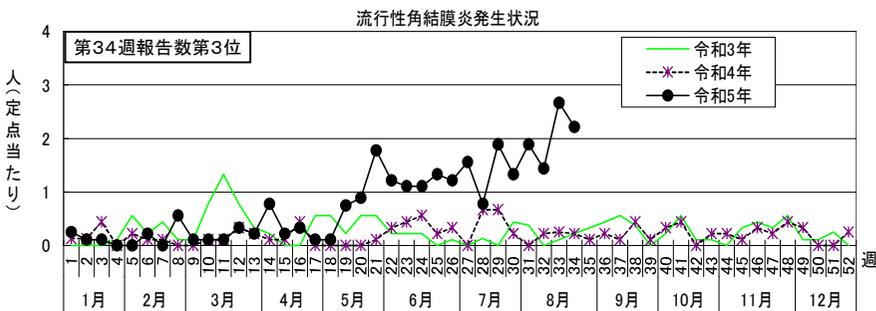
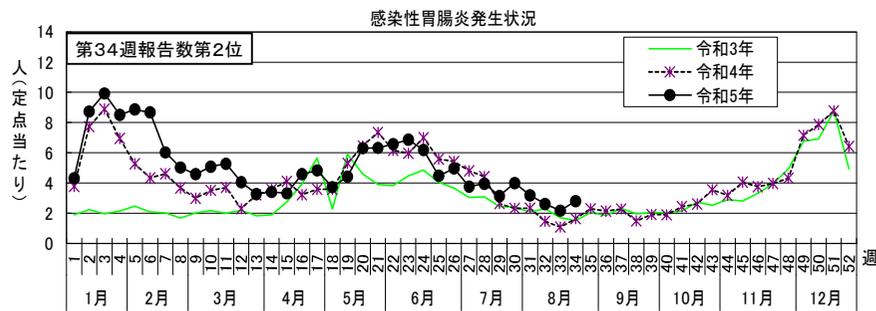
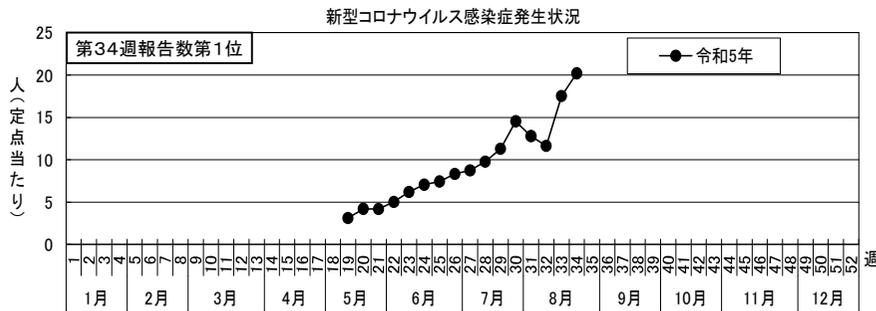


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年8月21日（月）～令和5年8月27日（日）〔令和5年第34週〕の感染症発生状況

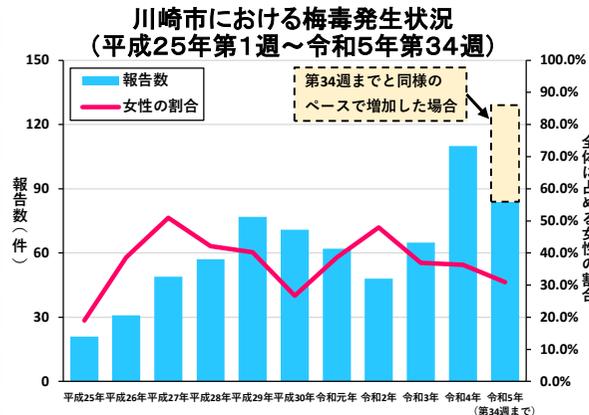
第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) 感染性胃腸炎 3) 流行性角結膜炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は20.20人と前週（17.52人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.81人と前週（2.18人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.22人と前週（2.67人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



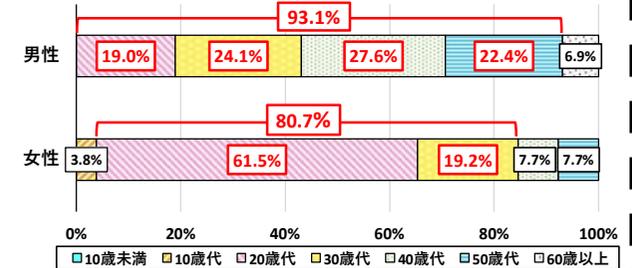
梅毒の報告数が増加中！～先天梅毒を防ぎましょう～

川崎市における令和5年の梅毒の報告数は、第34週（8月21日～27日）までに計84件となりました。今後も同様のペースで報告数が増加した場合、過去10年間で最多であった令和4年を超える可能性があります。

令和5年は、男性の報告数は20～50歳代が大部分を占め、40歳代が27.6%と最多となっています。一方、女性は妊娠可能年齢である20～30歳代が80.7%で、特に20歳代が61.5%と半数以上を占めています。妊婦が梅毒に感染すると、お子さんに皮膚症状や眼症状等の先天性の障害が生じる（先天梅毒）可能性があります。先天梅毒は妊婦への適切な治療で予防できますので、早期診断のためにも、定期的に妊婦検診を受けましょう。



川崎市における梅毒の性別年齢階級別発生状況
 （令和5年第1週～第34週）



先天梅毒を予防するためのポイント

- ・ 定期的な妊婦健診
- ・ 疑わしい症状がある場合の梅毒検査
- ・ 梅毒診断時の適切な抗菌薬治療

